

DP		CP 編成方針	アセスメント・ポリシー		
第一層	A	幅広い教養と専門的知識・技能を身に付けている。	<p>卒業認定・学位授与の方針に示す質的水準の達成状況である学生の学修成果としての各資質・能力については、下表に定めるとおり、各授業科目の到達目標に対する学修者の到達度について実施されるDP観点別評価の結果を集約するとともに、本学が定める大学のアセスメントマップに示す各種調査などを必要に応じて用いることによって、その修得状況を把握し可視化する。</p> <p>また、本学科の教育内容・活動については、把握・可視化した学修成果をふまえ、アセスメントマップに示す各種調査などを用いることで、多角的に検証する。</p> <p>その検証結果は、自己点検・評価活動やFD活動において、本学科の教育改革・改善に資するよう活用する。</p>		
	B	学びと研究の質を高めることができる思考力・判断力・表現力等を幅広く身に付けている。			
	C	地域社会及び国内外の諸課題の解決に主体的・創造的に参画貢献することができる。			
	D	自己の成長と社会の発展のために、自律的に学び続ける態度を身に付けている。			
第二層 (共通科目)			学修成果を測定する方法		
	A-1	幅広い学問領域の基本的な概念や理論を修得し、教養としての知識・技能を身に付けることで、社会事象を多面的に理解することができる。	主に人文科学、社会科学および自然科学の各分野を中心とした、学問の基本的な概念や理論を修得するための科目を、選択必修として1年次から配置する。	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「知識・技能」の学修成果を測定する。	主な科目 教養科目
	B-1	学びと研究の基盤となる思考力・判断力・表現力を獲得し、幅広い領域に活用することができる。	リテラシー領域を設け、学びと研究の基盤となる思考力・判断力・表現力を修得するための科目を、必修および選択必修として1年次および2年次を中心に配置する。	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「思考力・判断力・表現力等」の学修成果を測定するとともに、外部検定試験や外部アセスメントテストの結果も活用する。	外国語 データリテラシー スタディスキル ヘルシオリテラシー
	C-1	修得した資質・能力を主体的に活用し、多様な人々と協働しながら実際の課題に取り組み、創造的に課題解決に向かうことができる。	実習、演習、インターンシップ、ボランティアなどを中心とした、創造的に思考する力や他者と協働する力を修得するための基礎から発展への科目を、1年次から段階的に配置する。	各科目におけるグループワークや研究発表、実演等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「総合的な学修経験・創造性」の学修成果を測定する。	ライフデザイン応用
D-1	社会的課題やそれに対する学習・研究を通して、我々の生き方の指針を深く考え、自律的に真理を探し続けることができる。	ライフデザイン領域を設け、生き方の指針および学び続ける態度を修得するための科目を、必修および選択必修として1年次および2年次を中心に配置する。	各科目における小テスト、レポート、定期テスト、研究発表等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「態度・志向性」の学修成果を測定する。	キリスト教学 ライフデザイン基礎 西南学院史	
第二層 (専攻科目)			A	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「知識・技能」の学修成果を測定するとともに、外部検定試験の結果についても活用する。	
	A-2	外国語による言語活動に関する能力を習得しているとともに、個別領域のみならず複合領域にわたって積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。	外国語による「聞く」「話す」「読む」「書く」能力の習得及び4つの領域の言語活動を有機的に関連付けつつ総合的な言語運用能力を身に付けるための科目を配置する。	外国語による言語活動に関する能力を養成する科目において、「聞く」「話す」「読む」「書く」能力の個々の領域に加え、相互に有機的に関連づける総合的な言語運用能力を測る試験等によって、その学修成果を測定する。	総合英語 総合フランス語 英語スピーキングスキル&プレゼンテーション
	A-3	外国語の仕組みと言葉の意味や働きなどの語学的な知識と実践的な運用能力を習得するとともに文学的教養を培い、言語の背景にある多様な文化や社会に関する広い知識を身に付けている。	外国語が持つ言語の特徴等を理論的に理解するとともに、英語圏やフランス語圏の事情や文学・文化・社会に関する知識の習得と異なる文化に対する理解を深めるための科目を配置する。	外国語の実践的な運用能力を習得するとともに文学的教養を養成する科目において、言語の背景にある多様な文化や社会に関する広い知識に加え、学修者自身の説を論述する試験等によって、その学修成果を測定する。	英語圏文学史A ヨーロッパ文化概論 英文法A
			B	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「思考力・判断力・表現力等」の学修成果を測定するとともに、外部検定試験や外部アセスメントテストの結果も活用する。	
	B-2	様々なジャンルや話題に関する事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら、目的に応じて議論を行う言語運用能力を身に付けている。	国際社会に関する多様な情報を収集し複眼的に分析し、適切に判断して、自らの考えや意見などを形成して発信することができる能力を身に付けるための科目を配置する。	国際社会に関する多様な情報を複眼的に分析し、適切に判断する思考力を養成する科目において、毎授業回アクションペーパーやケーススタディに応じた小テストを用い、その都度の思考力の伸長度を確認し、学修成果を測定する。	Communication Studies A Global Issues A 英語史 英語圏文化研究A(ヨーロッパ)
			C	各科目におけるグループワークや研究発表、実演等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「総合的な学修経験・創造性」の学修成果を測定する。	
C-2	外国語学分野に関する研究活動に必要な基礎的な研究方法及び外国語学に関する専門的知識や研究方法を活用し、自ら課題を解決することのできる創造性を身に付けている。	外国語に関する文献講読や資料分析及び調査方法や分析手法などの能力の習得とともに、自らが立てた課題にそれらを活用し解決する能力を身に付けるための科目を配置する。	外国語学分野に関する研究活動に必要な基礎的な研究方法及び外国語学に関する専門的知識や研究方法を活用する演習において、学修者の発表・実演や授業への参加態度、及び学修者による報告書等によって学修成果を測定する。	導入演習 演習I	
D-2	外国語学を学ぶ目的及び外国語学を構成する学問体系と基本的な学び方について理解しているとともに、生涯にわたり知識を更新し、自らの資質を向上させる学習態度を身に付けている。	教育研究の対象とする学問分野の理解のもと、大学での学習を遂行するための基本的知識と技術及び卒業後も自律・自立して学習できる生涯学習力を身に付けるための科目を配置する。	D	各科目におけるレポートや研究発表等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「態度・志向性」の学修成果を測定する。	ゼミ論文・卒業論文において、先行研究の精査や主題の独創性及び学問的意味をふまえ、学修成果を測定する。
					基礎演習 卒業論文

DP		CP 編成方針	アセスメント・ポリシー		
第一層	A	幅広い教養と専門的知識・技能を身に付けている。	卒業認定・学位授与の方針に示す質的水準の達成状況である学生の学修成果としての各資質・能力については、下表に定めるとおり、各授業科目の到達目標に対する学修者の到達度について実施されるDP観点別評価の結果を集約するとともに、本学が定める大学のアセスメントマップに示す各種調査などを必要に応じて用いることによって、その修得状況を把握し可視化する。 また、本学科の教育内容・活動については、把握・可視化した学修成果をふまえ、アセスメントマップに示す各種調査などを用いることで、多角的に検証する。 その検証結果は、自己点検・評価活動やFD活動において、本学科の教育改革・改善に資するよう活用する。		
	B	学びと研究の質を高めることができる思考力・判断力・表現力等を幅広く身に付けている。			
	C	地域社会及び国内外の諸課題の解決に主体的・創造的に参画貢献することができる。			
	D	自己の成長と社会の発展のために、自律的に学び続ける態度を身に付けている。			
第二層 (共通科目)			学修成果を測定する方法		
	A-1	幅広い学問領域の基本的な概念や理論を修得し、教養としての知識・技能を身に付けることで、社会事象を多面的に理解することができる。	主に人文科学、社会科学および自然科学の各分野を中心とした、学問の基本的な概念や理論を修得するための科目を、選択必修として1年次から配置する。	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「知識・技能」の学修成果を測定する。	教養科目
	B-1	学びや研究の基盤となる思考力・判断力・表現力を獲得し、幅広い領域に活用することができる。	リテラシー領域を設け、学びと研究の基盤となる思考力・判断力・表現力を修得するための科目を、必修および選択必修として1年次および2年次を中心に配置する。	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「思考力・判断力・表現力等」の学修成果を測定するとともに、外部検定試験や外部アセスメントテストの結果も活用する。	外国語 データリテラシー スタディスキル ヘルシオリテラシー
	C-1	修得した資質・能力を主体的に活用し、多様な人々と協働しながら実際の課題に取り組み、創造的に課題解決に向かうことができる。	実習、演習、インターンシップ、ボランティアなどを中心とした、創造的に思考する力や他者と協働する力を修得するための基礎から発展への科目を、1年次から段階的に配置する。	各科目におけるグループワークや研究発表、実演等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「総合的な学修経験・創造性」の学修成果を測定する。	ライフデザイン応用
D-1	社会的課題やそれに対する学習・研究を通して、我々の生き方の指針を深く考え、自律的に真理を探し続けることができる。	ライフデザイン領域を設け、生き方の指針および学び続ける態度を修得するための科目を、必修および選択必修として1年次および2年次を中心に配置する。	各科目における小テスト、レポート、定期テスト、研究発表等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「態度・志向性」の学修成果を測定する。	キリスト教学 ライフデザイン基礎 西南学院史	
第二層 (専攻科目)			A	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「知識・技能」の学修成果を測定するとともに、外部検定試験の結果についても活用する。	
	A-2	外国語による言語活動に関する能力を習得しているとともに、個別領域のみならず複合領域にわたって積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。	外国語による「聞く」「話す」「読む」「書く」能力の習得及び4つの領域の言語活動を有機的に関連付けつつ総合的な言語運用能力を身に付けるための科目を配置する。	外国語による言語活動に関する能力を養成する科目において、「聞く」「話す」「読む」「書く」能力の個々の領域に加え、相互に有機的に関連づける総合的な言語運用能力を測る試験等によって、その学修成果を測定する。	外国語コミュニケーション(英語) 外国語コミュニケーション(フランス語) 英語スピーキングスキル&プレゼンテーション
	A-3	外国語の仕組みと言葉の意味や働きなどの語学的な知識と実践的な運用能力を習得するとともに文学的教養を培い、言語の背景にある多様な文化や社会に関する広い知識を身に付けている。	外国語が持つ言語の特徴等を理論的に理解するとともに、英語圏やフランス語圏の事情や文学・文化・社会に関する知識の習得と異なる文化に対する理解を深めるための科目を配置する。	外国語の実践的な運用能力を習得するとともに文学的教養を養成する科目において、言語の背景にある多様な文化や社会に関する広い知識に加え、学修者自身の説を論述する試験等によって、その学修成果を測定する。	英語圏文学史A ヨーロッパ文化概論 英文法A
			B	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「思考力・判断力・表現力等」の学修成果を測定するとともに、外部検定試験や外部アセスメントテストの結果も活用する。	
	B-2	様々なジャンルや話題に関する事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら、目的に応じて議論を行う言語運用能力を身に付けている。	国際社会に関する多様な情報を収集し複眼的に分析し、適切に判断して、自らの考えや意見などを形成して発信することができる能力を身に付けるための科目を配置する。	国際社会に関する多様な情報を複眼的に分析し、適切に判断する思考力を養成する科目において、毎授業回アクションペーパーやケーススタディに応じた小テストを用い、その都度の思考力の伸長度を確認し、学修成果を測定する。	Communication Studies A Global Issues A 英語史 英語圏文化研究A(ヨーロッパ)
			C	各科目におけるグループワークや研究発表、実演等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「総合的な学修経験・創造性」の学修成果を測定する。	
	C-2	外国語学分野に関する研究活動に必要な基礎的な研究方法及び外国語学に関する専門的知識や研究方法を活用し、自ら課題を解決することのできる創造性を身に付けている。	外国語に関する文献講読や資料分析及び調査方法や分析手法などの能力の習得とともに、自らが立てた課題にそれらを活用し解決する能力を身に付けるための科目を配置する。	外国語学分野に関する研究活動に必要な基礎的な研究方法及び外国語学に関する専門的知識や研究方法を活用する演習において、学修者の発表・実演や授業への参加態度、及び学修者による報告書等によって学修成果を測定する。	導入演習 演習I
	D-2	外国語学を学ぶ目的及び外国語学を構成する学問体系と基本的な学び方について理解しているとともに、生涯にわたり知識を更新し、自らの資質を向上させる学習態度を身に付けている。	教育研究の対象とする学問分野の理解のもと、大学での学習を遂行するための基本的知識と技術及び卒業後も自律・自立して学習できる生涯学習力を身に付けるための科目を配置する。	D	各科目におけるレポートや研究発表等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「態度・志向性」の学修成果を測定する。